よつば荘　　平成22年1月29日

（別紙4）　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人　よつば荘		
事業所名	よつば荘		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦一丁目59		
自己評価作成日	H21年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　21　年　9　月　29　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者さまと関わりが密であり、笑いあり、泣き顔あり家庭的に利用者と介護者との関わりが行われている。食事は筍の食材を使った手料理であり、利用者様方々は楽しみな表情で調理の様子をみている。月に一回は四季おりおりの料理をいしきして、ささやかな行事をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

JR小牛田駅の近くの閑静な住宅地にあり、事業所の周りには小さな河川に沿って歩道があり、入居者の格好の散歩道になっている。また、すぐそばには協力病院があり、入居者に安心感を与えている。理事長は看護師でもあり、かかりつけ医の協力を得て入居者の看取り介護の実績もある。家庭的な雰囲気の中で食べることが入居者の一番の楽しみであるとして、調理師でもある職員が腕をふるって旬の食材を使った手料理を提供するよう心がけている。訪問調査の昼食の際にも献立の「栗ご飯」、「きのこの煮物」、「さんまの甘露煮」などの旬の食材に入居者の方々が「美味しい」と言いながら笑顔で食べているのが印象的であった。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果（詳細）（事業所名　よつば荘　）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに掲げミィーテングの際唱和している。	理念は「家庭的な生活環境、楽しみの提供、安心感のある生活、地域社会とのつながり」を掲げている。年1回、理念の見直しを行っているが、当面は現行理念の実践を継続することにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに積極的に参加している。	町内会の夏祭りに入居者とともに参加し、露店での買物や地域住民との交流を図っている。また、近隣の人々が来所し、フラダンスを披露してくれたり、入居者の話し相手をしてくれるなど、近所付き合いを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	10月に講師を招いて地域の方々にの声をかけ、お誘いし支援の方法を活かす取り組みを予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H21年9月16日に運営推進会議の開催予定しており報告、話し合いをもつ機会をとっていけるようすすめている。	長年懸案であった運営推進会議を9月に初めて開催した。参加者は行政区長、地域有識者、町担当者、家族代表者等8人でホームの運営について双方向で意見交換した。今後2ヶ月に1回を目標に実施する予定であ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後、積極的にすすめていきたい。	事業所運営について町に相談し、指導を受けている。町の方でも運営推進会議への出席や外部評価への同行などにより、事業所への理解を深めている。今後とも町との連携を積極的に進めていくことにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、利用者の方々の行動・所在を確認し、施錠等しないようつとめている。	職員は身体拘束の弊害を理解し、日中、玄関は施錠していない。過去に職員が知らない間に外出し近隣住家に侵入したことがあり、それを契機に地域との見守り関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	各職員、研修など参加し学ぶ機会をもうけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	10月に研修参加の予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱設置予定	家族の来訪時には意見や要望があれば何でも話すよう声掛けしており、9月には投書箱も設置している。今後は外部の苦情窓口として運営推進会議のメンバーである行政区長に第三者委員を委嘱する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、または随時、連絡ノートに記載し活かしている。	職員の意見や提案など気づいた点は各人が連絡ノートに記載し、毎月1回の会議で対策を検討している。職員の提案を受けて10月から「よつば新聞」の発行や地震発生時の緊急避難対策の申し合せをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いに意見交換し、より良い職場環境につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で有資格者、経験者の意見などスタッフ間で話し合いより良いケアの取り組みを活かせる機会をもうけ実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題で検討していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人面談や日常的な関わりを通じて利用者の人間関係等スムーズに暮らしていけるように、つとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時など家族のかたと個別に話し合える機会をつくり、より良い関係で接していけるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握しニーズを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を和らげ安心して暮らせるように利用者さんと関わりをもちせっしていけるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の家族のおかれている環境や状況をふまえて、関わりをもてるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話などで連絡している。今後　よつば新聞の発行について検討している。	入居者の人間関係を大切にし、先祖への墓参りや家族旅行などの支援をしている。また、ホームへの友人の訪問など、関係が途切れないような配慮や趣味の釣りができるようその環境づくりなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズにいっていない場合、個別に互いの話を聞きながら、プライドを傷つけないようにサポートし、歩みよれるように、努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービスを利用していた、家族の方に行事等、誘いきていただいている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にともない本人の思いや考えを重視し、プランに反映していけるように検討している。	職員は、入居者に対して時間をかけゆっくり気持ちを汲み取るようにしている。職員の家族介護体験もその取り組みに活かしている。理事長は入居者から「おかあさん」と慕われ一人ひとりの気持ちを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティング時に日々利用者の方々の変化を話し合い、モニタリングをしながら経過等の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態の変化など観察し現状にあったケアが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時近況報告し、本人の重いを引き出しながら、定期的にモニタリングしつつ現状にあった計画を作成している。	月1回介護計画について入居者や家族の意向を確認し、必要に応じ計画を見直している。例えば、加齢により本人、家族の同意を得て車椅子使用になったが、歩行訓練は継続して行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を、日々記録し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの日々の変化に合わせ、その状況により対応出来るように、取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の力を引き出せるようにつとめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の状態を把握しているスタッフが付き添い受診する機会も多く、直接、利用者の主治医と関わっている。	受診は、本人や家族の希望を大切にし、従来からのかかりつけ医や協力病院を利用している。受診の際は職員が付き添い、本人の状態を医師に伝えている。受診結果は家族にも伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいな事柄も報告し相談、指示受けしケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いをもち、ターミナルケアもふまえ方針を共有している。	昨年秋の3ヶ月間、本人や家族の強い希望があり、終末期の看取り介護を行った。かかりつけ医の全面的な支援のもと、対応方針の説明・同意の手続きを経て、看護師でもある理事長が中心となって取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練については、検討中で今後、実施の予定で取り組んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル作成中で近隣に協力体制をお願いしている。	災害発生時には事業所内の耐震構造が強固な部屋に入居者を避難させることを申し合わせている。しかし、避難訓練は実施されておらず、地域との協力体制も確立されていない。	事業所では、災害対策について消防署や行政区長に相談しているが、具体的な対応を取るまでには至っていないので、今後の取り組みを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の要望や訴えに傾聴し、尊重しつつ、話し合える事が出来るように関係を保っている。	入居者には年長者として敬意を払い、尊重した呼び方を原則としているが、本人の同意が得られれば呼び易い方法を取っている。介護や誘導の際には入居者の感情面に配慮し、尊厳や誇りを損なわないよう対応している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼して頂けるような関係を保てるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンを把握し、それにより支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望により理・美容の利用や身だしなみに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、日々3食について、手作りにて個人の身体状況に合わせて食事の提供を行っている。	事業所の調理師が食事が楽しみになるように心がけている。献立表は前もって作っておらず、一般家庭と同じように日々備えている食材を使った料理にこだわっている。医療的な配慮は理事長（看護師）が指導している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人毎にバランスをとっており、水分量は摂取毎に記録し把握し確保出来るようにすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては起床時・就寝時に行っており個別に毎食後行っている利用者さんもいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時声がけにより歩行介助し排泄すすめており、オムツに依存しないように努めている。	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。オムツ使用でも残存機能を活用できる入居者へはその力を利用し、日中はトイレ排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筍の野菜を中心に献立をつくり、朝食時に身体状況に合わせて冷牛乳・温牛乳を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望により入浴のタイミングを合わせている。個別により夜間入浴もされている。	入浴は月曜と木曜の週2回で、夏は希望者にはシャワー浴（毎日でも可）をしている。入浴を拒む人（1人）には言葉掛けや対応の工夫により支援している。	入浴も食事と並び入居者の楽しみなので、できれば回数を限定せず、入浴が毎日でもきるような支援が望まれる。現行の週2回を増やすなど入居者の希望に沿った支援に取組むよう期待したい
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を把握し、その方のパターンにより休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により服薬の一覧表作成、服薬の確認を行っている。又症状の変化は日々把握しも押し送り等されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アニマルセラピー（子猫）飼った事により、孤立がちだった、利用者も表情が出てきてスタッフと共に張り合いや楽しみがでてきた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により家族の方と外出の機会がもてている。	事業所の周りに小さな河川に沿って歩道があり、天気の良い日には入居者の散歩を支援している。毎年、近隣の名勝地に花見や紅葉見物等に出かけている。外出できない人には敷地内の庭で芋煮会などを行い気分転換の場を提供している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に御小遣い帳作成し定期的に本人に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人にかわり代理で電話おこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごく一般的な家庭の雰囲気の延長の環境であり利用者の方はなじみやすく、季節の草花にもめぐまれている。	玄関を入ると季節の花が飾られ、近所からもらった子猫との触れ合いなどが入居者に家庭的な雰囲気を味わせている。建物は寮を改築したもので、共用空間が効率的に配置されている。廊下には手すりや消火設備も設けられ安心・安全面の配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室に訪室するなどしてすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品・家具類を設置しているかたもいる	居室には馴染みのものはあまりなかったが、入居者の生活習慣（ベットより畳での生活を好む、衣類を家具より風呂敷包みにまとめた方が落ち着く、テレビよりラジオの方に興味があるなど）を大切にした支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にバーを設置して自力歩行などしていけるようにしている。		